

平成26年4月18日	山門委員 提出資料
第12回保険者による 健診・保健指導等に関する検討会	

委員会報告（人間ドック 28：781-791, 2014）

人間ドック健診施設における特定健診・特定保健指導の現状

特定健診・特定保健指導対策委員会
委員長 高橋英孝

特定健診・特定保健指導対策委員会

2008年度より「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づいて、40歳以上75歳未満の全ての被保険者を対象とした特定健康診査・特定保健指導（特定健診・特定保健指導）が実施されている。それに先立ち、2007年度から特定健診・特定保健指導対策委員会が設置された（初代委員長・山門實）。2010年度から委員長が高橋に交代するとともに研修会の内容を検討するための研修内容検討小委員会も新設された。本委員会の主な役割は、①特定保健指導実践者を養成するための研修会の開催、②日本人間ドック学会関連施設における特定健診・特定保健指導の実態を明らかにするための全国調査の実施、③特定健診・特定保健指導で使用するツールの開発、の3点を中心である。

特定保健指導実践者養成研修会

2007年4月20日に、東京厚生年金会館にて特定健診・特定保健指導（確定版）説明会を実施した（参加者1,915人）。2007年5月に、国立保健医療科学院が行うリーダー育成プログラムの「生活習慣病対策健診・保健指導に関する企画・運営・技術研修」を修了（委員長・山門 實、副委員長・高橋英孝の2名が参加）し、翌6月22・23日に、講師育成研修を開催して人間ドック健診情報管理指導士研修会の講師を委嘱したうえで、7月28・29日に、第1回人間ドック健診情報管理指導士研修会を開催した。人間ドック健診情報管理指導士（通称・人間ドックアドバイザー）は医師、保健師および管理栄養士を対象とした研修会であり、2013年度末までに22回開催して5,261人を認定した（医師1,968人、保健師1,872人、管理栄養士1,421人）。この資格は5年ごとに更新が必要であり、更新のためのブラッシュアップ研修会を2009年度から開催し、2013年度末までの28回で述べ5,000人以上が受講している。2013年3月には2007年度認定者の更新が始まった。また、食生活の改善に関する専門的知識および技術を有する者を養成するための、人間ドック健診食生活改善指導士（通称・人間ドック食生活アドバイザー）研修会も2013年度末までに7回開催して、937人（看護師706人、栄養士89人、准看護師71人、ほか71人）を認定した。人間ドック健診食生活改善指導士は更新のための研修が義務付けられていないが、2013年11月17日に第1回食生活改善指導士向け研修会を開催し、2014年度も開催予定である。

人間ドック健診情報管理指導士研修会用のテキストとして、2007年7月に人間ドック健診情報管理指導士テキスト¹⁾を発行し、2008年5月には全面リニューアル²⁾を

行った。2009年8月には参考図書として特定保健指導マニュアル³⁾を出版した。現在は研修会ごとにテキストを作成し、内部資料として受講生に配布している。

特定健診・特定保健指導全国調査

2008年11月に当学会/日本病院会との集合契約において特定健診・特定保健指導の実施をしている1,444施設を対象として第1回目の全国調査を実施した(有効回答211件・15%)。2009年7月に第2回調査(1484施設中有効回答862件・58%)、2010年7月に第3回調査(1504施設中有効回答869件・58%)を実施した。第4回以降の全国調査回答率は表1に示した。第4回目からは人間ドック実施施設(人間ドック健診機能評価認定施設、健保連指定の一日ドックまたは二日ドック実施施設)と特定健診・特定保健指導集合契約参加施設(人間ドック学会施設会員および日本病院会会員)とに分けて実施した結果を合算している。最新の調査である第6回全国調査は、2012年12月中旬に発送し、特定健診・特定保健指導集合契約参加施設は2013年2月に回収、人間ドック実施施設は2013年6月に回収している。人間ドック実施施設の回答率は93%であるが、特定健診・特定保健指導集合契約参加施設の回答率は年々低下して50%を割っている。人間ドックおよび健診の受診者数と特定健診としての利用者数の推移を表2に示した。2011年度の総受診者約1,840万人のうち特定健診として実施したのは約400万人であり、全国の特定健診受診者総数(2,346万5,995人)の17%を占めていた。

特定保健指導担当者(常勤)がいる施設の数と1施設あたりの人数および研修修了率を表3に示した。2012年12月末日現在で特定保健指導を実施している914施設において、常勤担当者がある施設の割合は、管理栄養士72%、医師69%、保健師64%の順であり、一定の経験を有する看護師、健康運動指導士、食生活改善指導または運動指導担当者研修受講者の割合は30%未満であった。標準的な健診・保健指導プログラムでは「保健指導を実施する者は、保健指導のための一定の研修を修了していることが望ましい」とされている。保健師と管理栄養士は過半数が修了していたが、医師の研修修了率は25%に留まっている。なお、前年度の調査結果と比較すると、研修修了率はすべての職種で増加していた。

特定保健指導担当者の役割分担を表4に示した。初回面接から評価までの全ての役割において、保健師と管理栄養士が中心的な役割を担っていた。

特定保健指導実施施設における特定保健指導の実績を表5に示した。初回面接実施者は2008年度の54,802人から2011年度の80,255人まで毎年増加している。初回面接実施者の実績評価終了率は80%前後であり、2011年度は国全体の特定保健指導終了者の10%を占めている。6ヵ月後に行われる評価時の食生活改善率は66%、身体活動改善率は52%であり、3cm以上腹囲が減少した割合は29%、3kg以上体重が減少した割合は22%であった。

全国の特定健診・特定保健指導実施状況およびメタボリックシンドロームの該当者・予備群の状況⁴⁾を表6に示した。2011年度の特定健康診査の対象者数は約5,253

万人で、受診者数は約 2,347 万人であり、特定健康診査の実施率は 45%であった。2011 年度に特定健康診査を受けた者のうち、特定保健指導の対象者になった者の割合は 18%であった。特定保健指導対象者のうち特定保健指導を終了した者の割合（特定保健指導実施率）は 15%であった。2011 年度のメタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合は 27%であり、2008 年度からほぼ横ばいで推移している。

特定保健指導の対象者別の実施状況を表 7 に示した。2012 年の調査で回答が得られた 1,215 施設のうち特定保健指導を実施している施設は 914 施設（75%）であり、過去に実施していたが現在は実施していない施設も 32 施設（3%）存在する。保健指導実施 914 施設において、うつ病を含むメンタルヘルス対応者に対して特定保健指導を実施しない施設は 43%、無制限に実施する施設は 16%であった。がん・白血病などで通院中の者に特定保健指導を実施しない施設は 48%、無制限に実施する施設は 14%であった。視覚障害者に特定保健指導を実施しない施設は 45%、聴覚障害者に特定保健指導を実施しない施設は 41%であった。車いす・杖歩行を含む肢体不自由者に特定保健指導を実施しない施設は 22%であった。メンタルヘルス対応者や悪性疾患で通院中の者に対して無条件に実施することや障害があることで実施対象者から除外することは問題があるが、対象者の決定は医療保険者が行うため特定保健指導実施機関側には選択の余地がない。

特定健診・特定保健指導で使用するツールの開発

2013 年 8 月に特定健診・特定保健指導パンフレット⁵⁾を全面リニューアルした内容としては、保健指導総論（健診結果の見方、生活習慣病、肥満と肥満症、メタボリックシンドローム）・保健指導各論（身体活動、食生活とアルコール、喫煙、睡眠による休養）および生活習慣病各論（血圧高値、血糖高値、脂質異常、尿酸高値）を含み、項目ごとに A4 版両面で完結するスタイルに統一している。特定健診・特定保健指導での使用に限らず、通常の間ドックにおける結果説明および保健指導用としてもぜひ活用していただきたい。

委員会メンバー

【特定健診・特定保健指導対策委員会】

委員長：高橋英孝，副委員長：福井敏樹，委員：中坂育美，五味郁子，笹森 斉，津下一代，富田照見，福田 洋，細井義男，宮地元彦，山門 實

【研修内容検討小委員会】

高橋英孝，福井敏樹，秋元順子，飯田吾子，大塚博紀，奥田友子，五味郁子，富田照見，福田 洋，宮地元彦

研修会講師（2013 年度）

【人間ドック健診情報管理指導士研修会】

高橋英孝，福井敏樹，福田 洋，宮地元彦，五味郁子，中村正和，河野啓子，後藤由紀，

畑中純子，三原修一

【ブラッシュアップ研修会】

高橋英孝，福井敏樹，中村真樹，井上雄一，保坂 隆，来馬明規，富田照見，福田 洋，
宮地元彦，五味郁子，秋元順子，奥田友子，山下真理子，村上晴香，須賀厚子，飯田
吾子，大塚博紀

【人間ドック健診食生活改善指導士向け研修会】

高橋英孝，五味郁子，中村正和，澤田 亨，山田安彦

文 献

- 1) 奈良昌治，笹森典雄監，高橋英孝編：人間ドック健診情報管理指導士テキスト，
有限責任中間法人日本人間ドック学会，東京，2007.
- 2) 奈良昌治，山門 實監，高橋英孝，福井敏樹，福田洋，中村正和編：特定健診・特
定保健指導，有限責任中間法人日本人間ドック学会，東京，2008.
- 3) 奈良昌治監，高橋英孝編：特定保健指導マニュアル，医歯薬出版，東京，2009.
- 4) 厚生労働省：平成 23 年度特定健康診査・特定保健指導の実施状況．
http://www.mhlw.go.jp/bunya/shakaihoshho/iryouseido01/info03_h23.html
[2014.1.24]
- 5) 日本病院共済会：特定健診・特定保健指導パンフレット，2013．
http://www.nichibyoo.co.jp/m_guidance_01.html [2014.1.29]

表1 特定健診特定保健指導全国調査回答数・回答率

		第4回 2010年12月		第5回 2011年12月		第6回 2012年12月	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
人間ドック実施施設	機能評価認定施設	248	(95%)	266	(95%)	272	(95%)
	2日ドック優良指定施設	366	(90%)	358	(91%)	349	(92%)
	1日ドック施設	76	(89%)	71	(87%)	65	(92%)
集合契約参加施設	人間ドック学会施設会員	380	(66%)	383	(63%)	312	(48%)
	日病施設会員	288	(67%)	271	(65%)	217	(51%)
	合計	1358	(77%)	1349	(76%)	1215	(67%)

表2 人間ドックおよび健診の受診者数

種別		第4回	第5回	第6回
		2010年分 (1358施設)	2011年分 (1349施設)	2012年分 (1215施設)
人間ドック	2日ドック	239924	223661	228839
	1日ドック	3832116	3861081	3715913
健診	生活習慣病健診	2877520	2983371	2912599
	特定健診	1038391	1307526	1154430
	その他の健診	9956545	10025205	8921997
人間ドックと健診の合計人数		17944496	18400844	16933778
特定健診としての利用者数 (国全体に占める割合)		3517506 (16%)	3993835 (17%)	3882558 (未確定)

表3 特定保健指導常勤担当のいる施設数、人数および研修状況

	2011年12月末日現在の						2012年12月末日現在の					
	施設数		人数		研修修了		施設数		人数		研修修了	
	計	/施設	計	/施設	計	/施設	計	/施設	計	/施設	計	/施設
医師	849	(85%)	2247	2.6	417	(19%)	631	(69%)	1674	2.7	419	(25%)
保健師	660	(66%)	1784	2.7	1039	(58%)	588	(64%)	1702	2.9	1049	(62%)
管理栄養士	779	(78%)	1461	1.9	803	(55%)	661	(72%)	1277	1.9	720	(56%)
看護師(一定の経験を有する者)	331	(33%)	696	2.1	278	(40%)	246	(27%)	510	2.1	242	(47%)
健康運動指導士	191	(19%)	310	1.6	142	(46%)	172	(19%)	291	1.7	145	(50%)
食生活改善指導担当者 研修受講者	144	(14%)	301	2.1	—	—	104	(11%)	209	2.0	—	—
運動指導担当者研修 受講者	71	(7%)	115	1.6	—	—	54	(6%)	80	1.5	—	—

表4 特定保健指導担当の役割分担(2012年12月末日現在の特定保健指導実施914施設)

職種	初回面接	個別		グループ		メール		電話		評価	
医師	215	123	(13%)	39	(4%)	35	(4%)	44	(5%)	128	(14%)
保健師	604	595	(65%)	193	(21%)	470	(51%)	553	(61%)	589	(64%)
管理栄養士	607	638	(70%)	208	(23%)	432	(47%)	520	(57%)	565	(62%)
看護師(一定の経験を有する者)	156	164	(18%)	58	(6%)	114	(12%)	145	(16%)	141	(15%)
健康運動指導士	—	111	(12%)	73	(8%)	48	(5%)	58	(6%)	—	—
食生活改善指導担当者 研修受講者	—	56	(6%)	23	(3%)	41	(4%)	52	(6%)	—	—
運動指導担当者研修 受講者	—	30	(3%)	17	(2%)	14	(2%)	19	(2%)	—	—

表5 特定保健指導の実績(特定保健指導実施施設)

年度	支援レベル	初回面接	実績評価終了	国全体に 占める割合	食生活改善	身体活動改善	腹囲減少 ≥3cm	体重減少 ≥3kg
2008	動機付け	28942	23433 (81%)	14%	14811 (63%)	12604 (54%)	6192 (26%)	4618 (20%)
	積極的	25660	19505 (75%)		14020 (72%)	12092 (62%)	7038 (36%)	5976 (31%)
	合計	54602	42938 (78%)		28831 (67%)	24696 (58%)	13230 (31%)	10594 (25%)
2009	動機付け	34121	28690 (84%)	11%	17730 (62%)	15116 (53%)	7469 (26%)	5197 (18%)
	積極的	32019	24618 (77%)		17480 (71%)	15104 (61%)	8341 (34%)	6529 (27%)
	合計	66140	53308 (81%)		35210 (66%)	30220 (57%)	15810 (30%)	11726 (22%)
2010	動機付け	37193	31480 (85%)	11%	20960 (67%)	17282 (55%)	8221 (26%)	5678 (18%)
	積極的	34257	26109 (76%)		19609 (75%)	16362 (63%)	8309 (32%)	6486 (25%)
	合計	71450	57589 (81%)		40569 (70%)	33644 (58%)	16530 (29%)	12162 (21%)
2011	動機付け	42042	34927 (83%)	10%	22093 (63%)	17426 (50%)	8851 (25%)	6362 (18%)
	積極的	38213	28557 (75%)		19940 (70%)	15585 (55%)	9478 (33%)	7550 (26%)
	合計	80255	63484 (79%)		42033 (66%)	33011 (52%)	18329 (29%)	13912 (22%)

表6 全国の特定健診・特定保健指導実施状況(確報値)

年度	特定健診		特定保健指導				メタボリックシンドローム該当・予備群
	対象者	受診者	対象者	終了者	割合	割合	
2008	51919920	20192502 (39%)	4010717 (20%)	308222 (08%)	5418272 (27%)		
2009	52211735	21588883 (41%)	4086952 (19%)	503712 (12%)	5757451 (27%)		
2010	52192070	22546778 (43%)	4125690 (18%)	540942 (13%)	5959723 (26%)		
2011	52534157	23465995 (45%)	4271235 (18%)	642819 (15%)	6285217 (27%)		

表7 特定保健指導の対象者別実施状況(特定保健指導実施914施設)

対象者	実施しない	制限付きで実施	無制限に実施する
うつ病を含む メンタルヘルス対応者	392 (43%)	374 (41%)	148 (16%)
がん・白血病などで 通院中の者	439 (48%)	348 (38%)	127 (14%)
	408 (45%)	392 (43%)	114 (12%)
	371 (41%)	421 (46%)	122 (13%)
視覚障害者	371 (41%)	421 (46%)	122 (13%)
	371 (41%)	421 (46%)	122 (13%)
	371 (41%)	421 (46%)	122 (13%)
聴覚障害者	371 (41%)	421 (46%)	122 (13%)
	371 (41%)	421 (46%)	122 (13%)
	371 (41%)	421 (46%)	122 (13%)
車いす・杖歩行を含む 肢体不自由者	371 (41%)	421 (46%)	122 (13%)
	371 (41%)	421 (46%)	122 (13%)
	371 (41%)	421 (46%)	122 (13%)